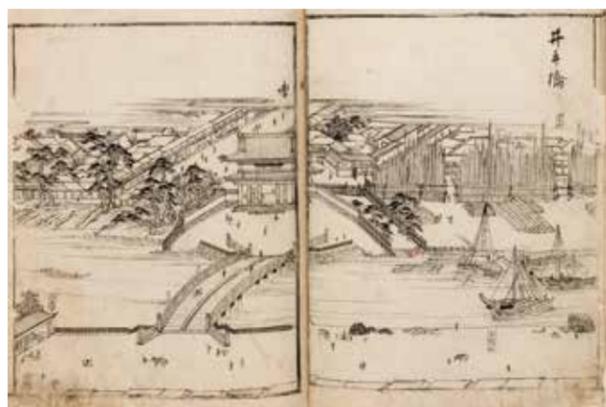


柳川の町と村を記したオランダ人

市史編さん係 白石 直樹



「井手橋」(『柳河明証図会』より)

江戸時代、日本は中国、オランダとだけ長崎で交易していました。長崎の出島(当初は平戸)にはオランダ商館が置かれ、商館長は交易のお礼のため江戸に行き、将軍に拝謁していました。このオランダ商館長の一行は、陸路で長崎街道を歩いて小倉まで行くのが通例でしたが、まれに諫早や竹崎から船で柳川へ渡ってくることもありました。

元禄5(1692)年3月3日、江戸に行く商館長一行は、竹崎から船に乗り、沖端川を上って柳川へ到着します。この一行に医師として随行したオランダ人のケンペルは、柳川の町を、「柳川は、人目をひく山地で、諫早から22里離れて位置している。天守閣が一つあるだけで、町の立派な通りを除けば、あとは漁師が住んでいる所である」と記しています(『江戸参府旅行日記』平凡社、1977年)。柳川に山はないので、これはドイツ語のBurg(城)をBerg(山)と書き誤ったのかもしれませんが、ケンペルらは柳川で昼食を取った後、久留米・柳川往還を歩いて久留米城下へと移動しています。

ケンペルらは、同年5月19日にも、江戸からの帰りに久留米・柳川往還を歩いて柳川へやって来て、今度は「橋の手前の宿舎」に一泊しています。この橋とは井手橋のことだと考えられます。この時に、ケンペルは柳川郊外の村の様子を「畑で大根の乾いた種を、から竿で打穀しているのを見た。方々で茶摘みをして

企画展「柳河藩の町と村」

江戸後期の柳河藩には、8万人から10万人が暮らしていました。多くの人が暮らしていた城下町や村は、どのような姿でどのように支配されていたのか、絵図や古文書を使って紹介します。

◆期間 12月1日(水)～2月6日(日)、月曜休館

◆会場 柳川古文書館

◆料金 無料

□企画展に関連した歴史文化講演会を開催

◆日時 12月18日(土)、午後1時30分～(開場は30分前)

◆会場 あめんぼセンター2階 AV ホール

◆内容 ▷立花家史料館の植野かおり館長による「立花家伝来美術工芸品にみる柳河藩の諸職」▷柳川古文書館の白石直樹氏による「柳河藩の町と村」

◆定員 60人(応募者多数の場合は抽選)

◆料金 無料

◆申込方法 住所と氏名、電話番号を書いて、市生涯学習課市史編さん係(〒832-0021、隅町71-2、FAX72-1275、メールkomon@city.yanagawa.lg.jp)へはがきかファックス、メールで申し込み

◆申込期間 12月1日(水)～12日(日)

【問】同係(☎72・1275)

いた。(中略)同様に、田植えも行われていたが、いつも婦人たちだけでやっていた」などと記しています。この、「大根の乾いた種」は、米の裏作として栽培された菜種の誤りと考えられます。

このようにケンペルは、当時の柳川の町や村の貴重な記録を残しているのです。

ひとを結ぶ。
まちを結ぶ。

column
No.86

地域おこし協力隊

撮影に同行して海苔の作り方を見学



最強の海苔を使った 最強のおにぎりづくり

「Youは何しに日本へ?」という番組の撮影に同行してきました。今回は、最強のおにぎりを作りたいというアメリカ出身のアンワーさんの夢を叶える企画です。日頃からよく見ていた大好きな番組に携われたこと、また撮影に協力してくれた大和漁協の漁師さんが偶然にも中学校の同級生だったことがとてもうれしかったです。

アンワーさんは、カメラが回っていない時にも漁師さんからももらったお土産の海苔をバクバクと食べていました。「アジアの海苔はアメリカのお店でも売っている。でも日本の、特に有明の海苔は高く買えない」「スナック感覚で食べるのは初めてだ、止まらない」と話しているのがとても印象に残っています。放送日は未定ですが、年末年始のどこかで放送予定です。日程が決まったら、公式サイトでお知らせします。この経験を生かして、次は、柳川の最強の海苔を使った、最強のおにぎりを商品化したいともくろんでいます。どなたか一緒に挑戦しませんか?



横山 真平 (34歳)

【プロフィール】市観光課に所属。観光プラットフォーム構築を担当

立花宗茂と閻千代をパッケージにした万年筆インク



柳川の歴史を感じる 新しい土産物が完成

前回のコラムで、柳川に息づく歴史や文化、風土などを感じさせる新たな土産物を開発しているとお伝えしました。今回は、ついに完成した万年筆インクを紹介します。

きっかけは、全国でそれぞれの地域の風土や縁のある人物などをイメージした、いわゆる「ご当地インク」が続々と作られていたこと。柳川にもこのような商品がぜひ欲しいと思いました。さっそく滋慶学園の学生さんが手がけた宗茂などのキャラクターイラストを活用しながらパッケージとラベルを作成。インクの色は、それぞれのキャラクターをイメージした色にしました。私のおこし隊としてのミッションのひとつに、立花宗茂と閻千代大河ドラマ招致があります。このご当地インクが、文房具好きな人や観光客などにとって、宗茂と閻千代、そして大河ドラマの招致活動を知るきっかけになって欲しいです。ようやく形にすることができたので、次はこの商品をどう生かすかを考えていこうと思います。



楠田 千佳 (45歳)

【プロフィール】市観光課に所属。柳川プロモーションを担当